

第4学年 「総合なかよし」学習指導案

1 単元名「みんなにやさしい暮らし」

2 単元について

児童の実態

児童は3年生の「総合的な学習の時間」において、「浦和のうなぎ」という身近な学習素材を活用して調べ方やまとめ方を学んできた。国語で身に付けた話し合いのスキルを生かし、同・異課題グループとの話し合い、情報交換の場を多く設定し、主体的に追究する学習を経験している。最後に3年生らしい表現方法でまとめて「仲町うなぎまつり」を行い、総合的な学習の時間の楽しさを味わってきた。地域や地域に生きる人のよさや、自分と地域との関わりを十分に感じる事ができた。全体的に読書好きな児童が多く、図書資料を活用した調べ学習に興味をもって取り組んできた。しかしながら、調べたことを整理分析し、そこから自分の考えをもつことはまだ難しい。

本校の学区は、市役所や公共施設が多く集まった地域である。そのため、バリアフリー化された施設を目にする機会が多く、地域には生活のための様々な工夫があることに多くの児童が気付いているが、児童が高齢者やしょうがいのある人と実際に触れ合う機会はほとんどない。高齢者やしょうがいのある人には、やさしく接しようという思いはあるものの、自分の生活との隔たりを感じているようである。しかし、本学年の児童は、年に3回学区内に在住するろう学校の4年生と交流学習を行う機会があり、しょうがいがあっても自分達と同じように遊び、生活する友達の姿から、しょうがいのある人に対する認識が少しずつ変わってきている段階である。

そこで、本学習を通して「みんなにやさしい暮らし」をテーマに地域や地域で暮らす様々な人を見つめ直し、課題や疑問を見つける力をつけていきたい。また、考えたことや思ったことを共有する中で、友達の意見に触れ、他者を理解する力をつけたい。そして、「みんなにやさしい暮らし」のために活動する人や施設などに積極的に関わることで、これからの自分達にできることを考えられる児童を育成していきたい。

単元の特性

第4学年では、国語科や社会科、道徳などの教科・領域で福祉に関わる教材・題材が扱われている。そこで、それらの学習との関連を図りながら、本単元では「みんなにやさしい暮らし」をテーマとして、福祉的な視点から学習活動を展開する。

はじめに、身の回りにある車いすのマークや学校内に設置された体育館前のスロープの写真などから、どんな人がそれらを使うのかを考え、わたしたちは、高齢者やしょうがいのある人たちと同じ社会で生活していることに気づかせていく。次に、高齢者疑似体験や点字・アイマスク体験、地域探検などの体験的な学習を通して、高齢者やしょうがいのある人などが生活していく上での問題点や思い、願いなどを知る機会を設定する。

そして、高齢者やしょうがいのある人のほか、妊婦や赤ちゃんを抱えるお母さんなど、福祉という視点から課題を見つけ探究活動を行っていく。

さらに、自分たちがくらしている町に目を向け、様々な立場の人々にとって、くらしやすい町であるかどうかをウォッチングし、児童が大人になる10年後の「みんなにやさしい暮らし」をめざして考えをまとめていく。まとめたことを、これからの自分の生き方について迫る場として、「二分の一成人式」で発表し、最終的には市民の声として届けたい。

3年生の総合的な学習の時間から1歩前進して、自分なりの考えをもって課題を設定したり、友達の異なる意見や考えを受け入れたり、みんなの考えをまとめたり広めたりできるようにしたい。また、児童一人ひとりが「みんなにやさしい暮らし」の実現や可能性について探究することを通して、自己の生き方を考え、地域を愛するとともに自分の夢や希望をもつことができるようにしたい。

3 研究の視点

研究主題

自分の考えをもち、共に学び合う子どもの育成
身近な「ひと・もの・こと」とかかわり合いながら、自己の生き方を考える子をめざして

研究の視点1：気づき・発見・かかわりと繰り返しを意識した単元計画の構成と「ひと・もの・こと」を意識した地域の教材開発

手立て① 探究的に積み上げる単元計画の工夫

高齢者疑似体験、点字・アイマスク体験などの活動を通して、福祉に興味をもち、社会には様々な人がいることに気づいたり、理解を深めたりして一人ひとりが自分の課題をもつ。そして、福祉を切り口にして、体験活動や調べ学習を行い、情報収集、整理・分析、まとめ・表現の方法をしっかりと身につけさせたい。また、興味をもった課題について調べ、友達と伝え合う活動を通して、自分の考えと異なる意見があることに気づき、他者の考えを受け入れられるようにしたい。

また、地域探検を行ったりゲストティーチャーからの話を聞いたりする活動を通して、自分の住んでいる地域に興味をもち、地域を調べることにより、自分なりに「みんなにやさしい暮らし」について考え、「二分の一成人式」に向けて、新たな課題設定へとつながるような単元を構成する。

手立て② 「ひと・もの・こと」と地域に意図的にかかわらせる工夫

3年生の時、スーパーマーケット見学の学習で利用した地域にあるイオンに見学に行き、福祉に関する記号を調べたり、社会福祉事業にかかわる方々のお話を聞いたり、体験活動を行ったりすることにより、新しい発見や疑問が生まれ、地域への興味関心が高まるようにする。

研究の視点2：「課題の設定」「情報の収集」「整理・分析」「まとめ・表現」場面における子どもにつけさせたい力（目標）の明確化と指導・評価の工夫

手立て① 課題解決をするための資質や能力を高める指導の工夫

課題を解決するために、さまざまな方法があることを指導する。図書資料やインターネットでの調べ学習をはじめ、地域に出向き、自分の足で歩き自分の目で見て学ぶ経験を大事にしたい。本校は、図書館や市役所、公園など学区内に公共機関が充実している地域である。日頃から、福祉に関する施設に目を向け、興味関心をもって学習に臨めるような声かけをしていきたい。

また、たくさんの資料を持ち寄り、友達と協同で調べたり話し合ったりする活動の中で、整理・分析を行ったり、自分なりの考えを伝えたりする資質を育てていきたい。さらに社会福祉事業に関わる方々の話を聞いたり、自分たちの町がもっとやさしい町になるにはどうしたらよいかという視点で学区内を見学したりする活動から、「みんなにやさしい暮らし」についての考えを深めていき、まとめ・発表へとつなげていきたい。

手立て② 自己の生き方につながるまとめと評価の工夫

自分たちが住んでいる町が、10年後にどんな町になってほしいかを、「みんなにやさしい仲町タウン計画書」にまとめ、「二分の一成人式」で友達や保護者に発表する。そして、自分たちが作った計画を市民の声として届け、地域を愛する思いや自分の夢や希望を大事にする児童を育成していきたい。

4 単元の目標

- 体験や人とのかかわりから、自分なりの考えをもち、他者の意見や考えを受け入れることができる。
- 「みんなにやさしい暮らし」について調べる活動を通して、地域と進んでかかわることができる。

5 単元の評価規準

育てたい 資質や 能力及び 態度	学習方法に関する こと	<p>【① 課題設定 ②収集分析 ③思考判断 ④表現省察】</p> <p>①地域調べや体験的なかかわりを通して得た気づきから、福祉に関心をもち課題をみつけることができる。</p> <p>②課題解決に向けて必要な情報を集めることができる。</p> <p>③集めた情報を比較したり、関連付けたりして「みんなにやさしい暮らし」について考えることができる。</p> <p>④相手や目的に応じて、自分が伝えたい情報を取捨選択してまとめ、伝えることができる。</p>
	自分自身に関する こと	<p>【⑤意思決定 ⑥計画実行 ⑦自己理解 ⑧将来展望】</p> <p>⑤「みんなにやさしい暮らし」について、自分ができることについて考え、意思決定することができる。</p> <p>⑥「みんなにやさしい暮らし」のために自分ができることを考え、地域の人に伝えることができる。</p> <p>⑦「みんなにやさしい暮らし」について、自分のできることを考えることができる。</p> <p>⑧自分たちの町を「みんなにやさしい暮らし」にしていこうという思いをもつことができる。</p>
	かかわりに関する こと 他者や社会との	<p>【⑨他者理解 ⑩協同 ⑪共生 ⑫社会参画】</p> <p>⑨友達の異なる意見や他者の考えを受け入れることができる。</p> <p>⑩友達と協力しながら「みんなにやさしい暮らし」について調べたり、まとめたり、表現したりすることができる。</p> <p>⑪「みんなにやさしい暮らし」についての思いをもち、地域の人たちとのかかわりを考えて生活することができる。</p> <p>⑫「みんなにやさしい暮らし」の実現や可能性について考え、進んで地域とかかわろうとする。</p>

みんなにやさしいくらし

<p>さぐる①</p>	<p>高齢者疑似体験や車いす体験をしよう。</p> <p>車いすの人って大変だね。</p> <p>しょうがいがある人はどのようにくらししているのかな？</p>
<p>つかむ①</p>	<p>町の中にあるマーク調べをしよう。</p> <p>車いすのマークがついているトイレを見つけたよ。</p> <p>調べてきたマークを整理して、自分の課題を決めよう。</p>
<p>ふれる①</p>	<p>自分の課題の解決に向けて情報を集めよう。</p> <p>集めた情報の中から必要な情報を選ぼう。</p> <p>図書室やコンピュータールームで調べよう。</p> <p>たくさん調べたけど、みんなに伝えるときにこの情報は必要かな？</p>
<p>ひろめる①</p>	<p>調べたことをまとめよう。</p> <p>まとめたことをみんなに伝えよう。</p> <p>パンフレットや新聞にまとめてみたよ。グラフがあって見やすいね。</p> <p>ほかのグループは、どのようにまとめたかな。</p>
<p>ふれる・つかむ②</p>	<p>ゲストティーチャーの話聞いて、さまざまな立場の人の思いを知ろう。</p> <p>話を聞いて初めてわかったことがあるよ。</p> <p>わたしたちにできることがありそうだ。</p>
<p>さぐる②</p>	<p>自分たちのくらしを見直して、「みんなにやさしいくらし」にするための計画を考えよう。</p> <p>ここは車いすの人にはつかいづらいね。</p> <p>どうしたらみんながくらしやすいかな。</p> <p>地域探検で調べてきたことをまとめて、発表会の準備をしよう。</p>
<p>ひろめる②</p>	<p>二分の一成人式で「みんなにやさしいくらし」を発表しよう。</p> <p>地域のくらしもよりよいものになってほしいな。</p> <p>自分たちが作った「みんなにやさしい仲町タウン計画書」を市役所の人にわたそう。</p>

(1) ねらい

- ・体験活動を通して集めた情報や資料を整理し、比較したり関連付けたりしながら、「みんなにやさしい暮らし」についてのウェビング図を作り、これから調べていきたいことを見いだすことができる。

(2) 評価の観点

- 集めた情報を比較したり、関連付けたりして「みんなにやさしい暮らし」について考えていくことができる。

【思考判断】

(3) 展開

学習活動・内容	評価（◇）と評価方法[] 指導・支援（○）	時間
1 本時の学習課題を知る。	○「みんなにやさしい暮らし」のクラスの課題を確認する。 ○本時は一人ひとりが考えてきたウェビング図をもとに、さらにイメージを広げ、調べたいことを考えていく時間であることを伝える。	5
グループウェビング図を作って、調べたいことを見つけよう。		
2 クラスの課題を中心に、グループでウェビング図を作り、分析する。	○一人ひとりが考えてきたウェビング図をもとに、グループで話し合い、グループウェビング図を作る。 ○高齢者疑似体験や車いす体験、地域探検で集めた資料を参考にしながら、イメージを広げられるようにする。 ○前もって各自がウェビング図を作成しておくことで、話し合いが苦手な児童も関わられるようにする。 ○同じ内容を線で囲んだり、関連のあるキーワードをつないだり、重要だと思うところに印をつけたりしながら、クラスの課題を多面的にとらえられるようにする。	15
3 これから調べていきたいことについて考える。	○友達と話し合いながらウェビング図を作成することで、問題の共有化がなされ、課題意識を高められるようにしていく。 ○グループウェビング図の中で、自分がこれから考えていきたいこと、調べてみたいことに色別シールをはり、そう考えた理由について話し合うようにする。 ○自分の考えをもてない児童には、体験を通して集めた資料をもとに興味をもったことから考えたり、友達の意見を参考にしたりして、課題意識を高めていくようにする。 ○自分が調べてみたいことを発表する。 ◇体験学習を通して集めた情報を比較したり関連付けたりして、「みんなにやさしい暮らし（クラスの課題）」についてのウェビング図を作り、これから調べていきたいことを見いだすことができる。[ウェビング図・ワークシート・発表]	20
4 本時のまとめと次時の予告をする。	○次時は、本時の話し合いをもとに、「みんなにやさしい暮らし（クラスの課題）」について、一人ひとりが課題を設定し、グループングしていくことを伝える。	5

(1) ねらい

- ・体験活動を通して集めた情報や資料を整理し、比較したり関連付けたりしながら、「みんなにやさしい暮らし」についてのウェビング図を作り、これから調べていきたいことを見いだすことができる。

(2) 評価の観点

- 集めた情報を比較したり、関連付けたりして「みんなにやさしい暮らし」について考えていくことができる。

【思考判断】

(3) 展開

学習活動・内容	評価（◇）と評価方法[] 指導・支援（○）	時間
1 本時の課題を知る。	<ul style="list-style-type: none"> ○クラスの課題の確認し、それを解決するために学習を進めていくことを確認する。 ○本時は、前時にグループで作成したウェビング図を使い、クラス全体でウェビング図を作り、これから調べていきたいことを考える時間であることを伝える。 	5
クラスでウェビング図を作って、調べたいことを見つけよう。		
2 クラスの課題を中心にウェビング図を作る。	<ul style="list-style-type: none"> ○前時に作成したウェビング図をもとに話し合いながら、クラス全体でウェビング図を作る。 ○高齢者疑似体験や車いす体験、地域探検で集めた資料を手元に置き、体験をもとにクラスの課題についてイメージを広げられるようにする。 ○他のグループの考えと自分たちのグループの考えを比較しながら、話し合うようにさせる。 ○完成したウェビング図で、同じ内容を線で囲んだり、関連のあるキーワードを線をつないだりし、クラス全体でウェビング図の分析をする。 	15
3 これから調べていきたいことについて考える。	<ul style="list-style-type: none"> ○ウェビング図の中の気になった部分やキーワードに着目させ、これから調べていきたいことと、そう考えた理由について自分なりの考えをもてるようにする。 ○自分の考えをもてない児童には、体験を通して集めた資料にかえり、興味をもったことから考えるよう助言する。 ◇体験学習を通して集めた情報を比較したり関連付けたりして、「みんなにやさしい暮らし（クラスの課題）」についてのウェビング図を作り、これから調べていきたいことを見いだすことができる。[ワークシート・発表] 	20
4 本時のまとめと次時の予告をする。	<ul style="list-style-type: none"> ○次時は、本時の話し合いをもとに、「みんなにやさしい暮らし」について一人ひとりの課題を設定していくことを伝える。 	5